

要介護（要支援）認定者 数の推計および認知症高 齢者等の現状と推計

平成29年11月

函館市保健福祉部

目 次

1	要介護（要支援）認定者数の推計	1
2	認知症高齢者等の現状と推計	2

1 要介護（要支援）認定者数の推計

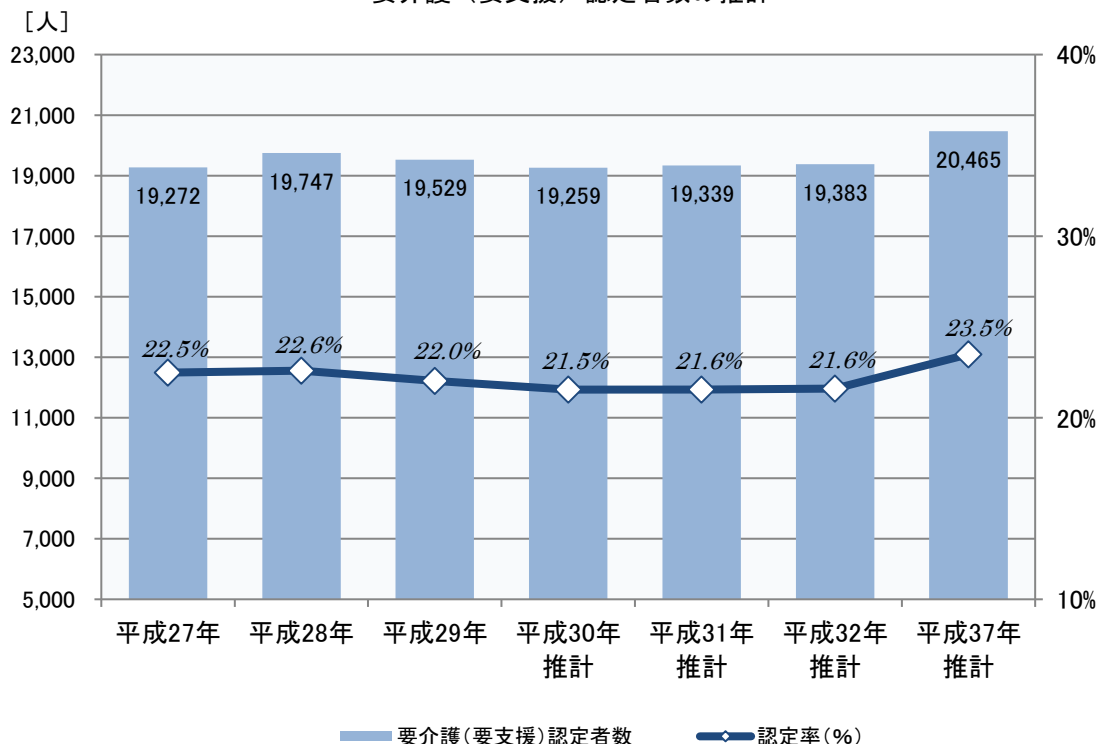
平成 27 年から平成 29 年までの要介護（要支援）認定率の伸び率や、介護予防・生活支援サービス事業へ移行する者の数を踏まえ推計した結果、要介護（要支援）認定者数は一時減少しますが、平成 31 年からは介護予防・生活支援サービス事業へ移行する者の影響がなくなり、再び増加すると予測されます。

要介護（要支援）認定者数の推計

[人]

区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年 推計	平成31年 推計	平成32年 推計	平成37年 推計
要支援1	4,296	4,258	3,849	3,417	3,326	3,210	3,252
要支援2	2,811	2,904	2,784	2,654	2,620	2,577	2,579
要介護1	3,684	3,865	3,916	3,957	3,967	3,980	4,243
要介護2	2,647	2,778	2,859	2,935	2,990	3,040	3,312
要介護3	2,092	2,186	2,179	2,164	2,131	2,089	2,063
要介護4	1,903	1,949	2,040	2,135	2,225	2,326	2,614
要介護5	1,839	1,807	1,902	1,997	2,080	2,161	2,402
合計	19,272	19,747	19,529	19,259	19,339	19,383	20,465
認定率	22.5%	22.6%	22.0%	21.5%	21.6%	21.6%	23.5%

要介護（要支援）認定者数の推計



- * 介護保険事業状況報告（平成 27～29 年の各年 9 月末日現在）を基に推計した。
- * 認定率は、高齢者数（第 1 号被保険者数）に対する認定者数（第 2 号被保険者数を含む）の割合。
- * 高齢者数は、平成 24～29 年の各年 9 月末日現在の住民基本台帳を基にコーホート変化率法により推計した。

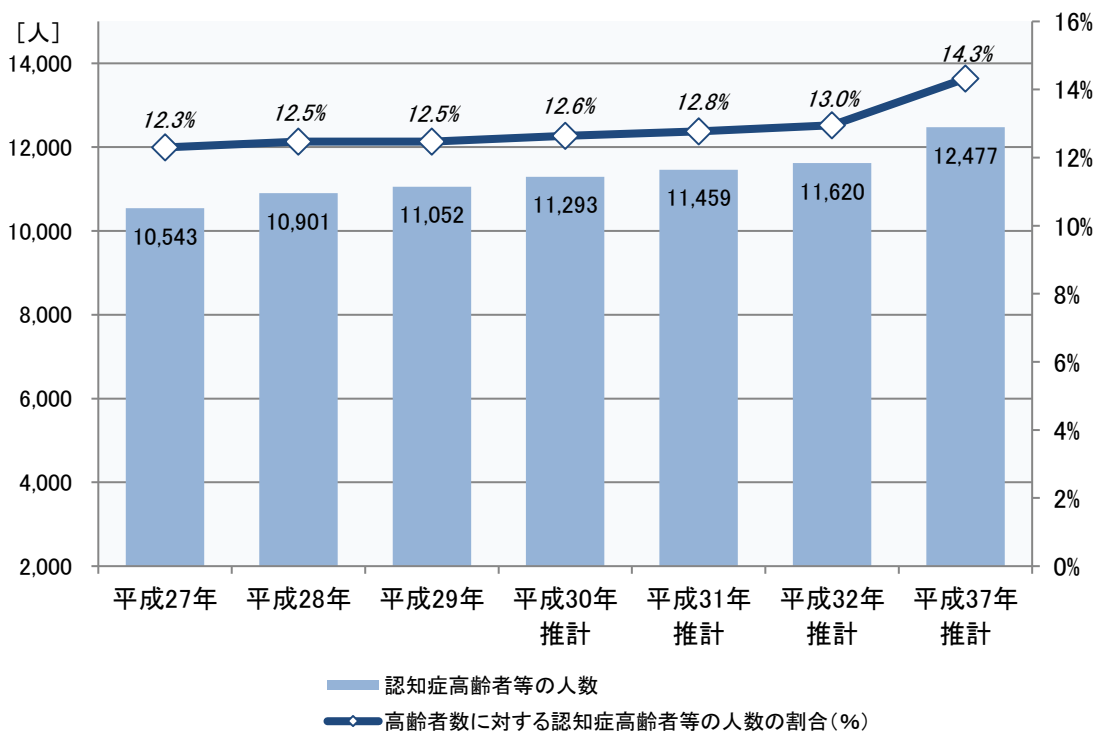
2 認知症高齢者等の現状と推計

認知症高齢者等の人数は増加傾向にあります。

平成 29 年 9 月末時点における認知症出現率が将来にわたって一定であると仮定し、推計した要介護（要支援）認定者数を基に、平成 30 年から平成 37 年までの認知症高齢者等を推計した結果、平成 32 年には 1 万 1,620 人、平成 37 年には 1 万 2,477 人と増加が続くと予測されます。

また、高齢者数に対する割合は、平成 29 年の 12.5%から平成 32 年に 13.0%、平成 37 年には 14.3%になると予測されます。

認知症高齢者等の現状と推計



* 介護保険課資料（平成 27～29 年の各年 9 月末日現在）を基に推計した。

* 認知症高齢者等は、要介護（要支援）認定者のうち、日常生活自立度がⅡ以上と判定された者。

(参考) 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
	II a 家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。	
	III a 日中を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
	III b 夜間を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	ランクⅢaに同じ
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクⅢに同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等